

中学校・高等学校では 次期学習指導要領を見据えた教育目標図に 大学も3学科でカリキュラム改定へ

変わる金城学院
金城学院中学校・高等学校
KINJO GAKUIN JUNIOR HIGH SCHOOL
&
KINJO GAKUIN HIGH SCHOOL

三つの力の育成をすべての教育活動で実践し
自分で考え、主体的に行動できる人に

教育方針

社会に参画し、主体的に生きる

表現

- ・自分の言葉で伝える。
- ・疑問を言葉にして伝える。
- ・表現することで自分の考えを客観的にとらえ、新たな学びにつなげる。

協働

- ・自分の考えを明確に伝え、他者の考えを聴く。
- ・対話から新たな発見をする。
- ・他者とともに目標を達成する。



科学的思考

- ・疑問をもち、課題を立てる。
- ・適切な情報を集め、それらをさまざまな角度から分析する。
- ・分析結果を総合して、課題を解決する。

金城学院中学・高等学校では、「科学的思考」「表現」「協働」の力を育てる教育を展開。

主体的に生きることのできる女性の育成をめざしていきます。

また金城学院大学では今年度より3学科で一部カリキュラムを改定。

文学部 外国語コミュニケーション学科は世界の文化を深く学ぶ二つのコースを新設し、より幅広い視野を身につけ、

国際情報学部 国際情報学科では海外キャリアトレーニングで国際力を養成、

人間科学部 コミュニティ福祉学科ではソーシャルウーマンの育成をしていきます。

金城学院中学校・高等学校では、文部科学省の次期学習指導要領を見据えて新しい教育方針として「科学的思考」「表現」「協働」の三つを打ち出しました。これら三つの力を伸ばすことで、教育方針にある「社会に参画し、主体的に生きる」女性の育成をめざします。この教育方針に込められた想いについて、高等学校の長屋頼子副校長とカリキュラム研究部長の柳瀬公代先生にお話を伺いました。

新しい教育目標図は2015年度の夏に行った教員ワークショップから生まれました。「三つの力をサークルで表現したのは、すべての教育活動においてこれらを実践してほしいという思いが込められています」と長屋副校長は話します。また柳瀬先生は「まずは学びを通して、自分の頭で判断し、考えることができる人になってほしい」といいます。

また今回の新しい教育方針の中で、長屋先生は「どんなコミュニティに

おいても、主体的に関わりながら自分の意見を持ち、しなやかに生きてほしい。そのために三つの力は必要であり、そのままキャリア教育にもつながります」と話し、柳瀬先生も「周囲に流されず、判断力のある人になるために身につけてほしい」といいます。高等学校では今後、学内の学びだけではなく大学でのワークショップなど学外での学びにも生徒の積極的な参加を促し生徒たちの三つの力を伸ばしていきます。

Ⅰ 実験・分析を通して探究のプロセスを理解し、協働力を身につける

高等学校では理系2年生の希望者を対象として、今年の夏に2日間かけて理数探究のワークショップを実施します。1日目はまず一学期で学んだ物理基礎の力学の知識をもとに教員が課題を提供し、その課題解決のための実験を生徒たち自身が考えて行います。

2日目は教員の指導のもとに実験

データの数学的分析を行い、議論を交わします。「探究のプロセスは仮説のもとで検証計画を立てて、観察や実験を行い、結果を分析することです。今回はこの大部分を生徒主体で行います」と物理を担当する山内麻記子先生。また数学を担当する中山大輔先生も「物理の実験結果を数学的に分析するのは生徒たちにとって

初の試みです」と話します。

山内先生はこの授業の目的として「まず探究のプロセスを理解してほしい」。また中山先生は「数学的な見方や考え方を応用することで、理科と数学につながりがあることも理解してほしいと思っています。探究を通して対話する力や協働する力、問題を見つける力を養ってほしい」と期待します。

Ⅰ 言語活動を通して論理的な意見の構築や表現力を育成

中学校・高等学校の英語では論理的思考を意識した言語活動に力を入れていきます。中学校の英語を担当する中野景介先生は「以前は英文を読む、聞くというインプット中心の授業が多かったのですが、今はアウトプットに重点を置いた授業を行っています」と話します。

今年の夏休みには高校2年生の希

望者を対象に、さらに深めるためのセミナーを開講する予定です。セミナーでは一例として、英字新聞やインターネットの記事を読んで要約し、自分で意見を組み立てて、それをもとにお互いに英語での質問や意見交換を行います。高等学校の英語を担当する水野志帆子先生は「生徒たちの表現力や発信力をより高めていきたい。今の社会

では自分の意見を明確にいえる人材が求められています。また英語でディスカッションを行なう機会もさらに増えると思います。自分の考えをしっかりと伝えるためにも、まずは論理的に意見をいえるようになることが大切です」と話します。新しい教育活動を通して、これからの時代に必要とされる資質を備えた女性を育てていきます。

世界の文化を深く学ぶ二つのコースを新設 海外キャリアアッププログラムがより充実

今年度、世界を広い視野から学ぶため、2年次に「海洋文化コース」と「大陸文化コース」に分かれるカリキュラムを新設。また海外キャリアアッププログラムなど、海外に出て外国語を学ぶ機会が増えました。これらの新カリキュラムについて外国語コミュニケーション学科の浅井邦昭教授と北原ルミ准教授に話を伺いました。

カリキュラム改訂では大きな変更点が二つあります。一つは世界の文化を広く、深く学ぶための二つのコース新設です。2年次に日本をはじめオセアニア、カリブ海地域、華僑・華人社会などの文化を学ぶ「海洋文化コース」と、インド、中国大陸、フランス、ドイツ、スイスなどの文化を学ぶ「大陸文化コース」にわかれます。「大陸と海洋で分け、地域を明確にすることで受験生もどの地域が学べるのかが分かるようになりました」と浅井教授。

1年次では「ディベート入門」に加え、「海洋コース入門」「大陸コース入門」

外国語コミュニケーション学科 三つのポイント

- POINT 1** 英語ともう1言語を使いこなせる人に
- POINT 2** 実践的プログラムで海外経験を積める
- POINT 3** 大陸・海洋の視点から世界の文化を理解する

1年生

入学時に三つの中から好きな外国語を一つ選択
会話・文法・実践・検定の授業を週5受講



2・3・4年生

二つの外国語を使って大陸と海洋の両方から世界を学ぶ

大陸文化コース

中国大陸
フランス
ドイツ、オーストリア、スイス
インド

海洋文化コース

華僑・華人社会
カリブ海、大西洋
オセアニア
日本

が2年次のコース選択のための基礎として必修になっています。また、新設された理論研究科目では、人文科学の基礎的方法論を学ぶことで、広い地域に理論を適用できるようになります。それにより、文化科目では従来の中国、フランス、ドイツと合わせて、さらに幅広い地域の文化を勉強していきます。

もう一つの大きな変更点は海外での学びの機会の充実です。「海外キャリアアッププログラム」と、国内外で外国人に日本語を教える「日本語教育プログラム」が用意されています。

科目では留学前の準備としてTOEFL対策講座を新設。新たな独自カリキュラムが3年次の中期(16週間)留学、カナダへの「英語圏セメスター留学」です。

「英語圏セメスター留学は徹底的に語学の力をつけるところが大きな特長。英語力を伸ばしたい学生にとって最適なプログラムです」と北原准教授。留学後は「英語スピーチ強化講座」で発信力に磨きをかけます。

中国、フランス、タイなど英語圏以外に行く学生も含め、海外での学びの機会が更に増加。

「海外から帰ってくると精神的にも強くなります。新カリキュラムで海外の体験を更に増やし、自分の世界を広げてほしいと思います」と浅井教授。北原准教授も「勇気をもって知らないことに踏み出せるような体験を積み、広い視野を持ってもらえれば」と学生の成長に期待を込めています。

海外キャリアトレーニングで グローバル化社会に必要な力を養成

海外での体験型プログラムや多彩な授業を通して国際社会の実情と世界の多様な文化を学びながら、ますます加速するグローバル化社会に必要なスキルと感性を身につける国際情報学部国際情報学科。中でも学びの柱となる海外研修のKIT(Kinjo International Training)は1年次の春休みに全員が参加。カナダホームステイ&語学研修プログラムや米国ユニバーサルスタジオでの映画制作プログラムなど七つのコースがあり、学生は目的に合わせて参加します。今回新たに設けられる「海外キャリアトレーニング」について同学科の齊藤由香准教授に話を伺いました。

海外キャリアトレーニングは、2年次の春休みに実施。「英語研修に現地の企業やNPOでのインターンシップを組み合わせ、KITより少し長めの4~6週間のプログラムです。アメリカ西海岸のサンディエゴは多民族、多文化の町として知られ、さまざまな価値観や文化に触れることができます」と齊藤准教授。「語学

学びの分野

国際社会

異文化に触れ、国際感覚を養う

地域研究

各国の政治や経済を理解する

現代社会

現代社会の実際を調べ、考える

国際ビジネス

世界経済とビジネス事情を知る

各業界と連携した実践的な学び

〈旅行・観光〉

企業提携授業

観光サービス論

観光サービス研究

観光ビジネス研究

〈貿易ビジネス〉

資格取得支援

通関業務研究

貿易実務研究

は少人数クラスでしっかりと学べます」とその魅力を語ります。

海外キャリアトレーニングはTOEICの点数やGPAなど、一定基準をクリアした学生が参加でき、選抜型の奨学金(20万円)もあります。「1年次のKITで早い段階から異文化に触れ、そこで得た学びをさらに発展させます。語学研修だけではなくインターンシップを経験することで、社会で求められるコミュニケーション力や企画実践力、環境適応力を身につけてほしいと思います」と齊藤准教授は話します。

またコースごとの新カリキュラムも始動。グローバルスタディーズコースでは旅行関連の資格取得をめざす学生に対して「世界遺産研究」を設置します。

また旅行・観光業界を実践的に学ぶ授業としてANAや名鉄観光と連携し、「観光サービス論」や「観光ビジネス研究」を展開。旅行や観光について専門的に学ぶことができます。

メディアスタディーズコースでは新規科目として「映像コンテンツビジネス論」を開講し、映画やアニメ、広告業界で活躍する人による講義を行います。「こうした学びを通してメディアを効果的に使って自ら情報を創造し、発信する力を養ってもらいたいと思います」と齊藤准教授。「一学部一学科として、グローバルもメディアも両方学んで多様な知識とスキルを身につけてほしいと思っています」と話します。

国際情報学科 グローバルスタディーズコース 三つのポイント

POINT
1 異文化を体験
世界へ目を向ける

POINT
2 教室の外でアクティブに
学ぶ機会が豊富

POINT
3 就職で役立つ国家資格
取得のサポートも充実

社会や地域と協働できる 「ソーシャルウーマン」を育成

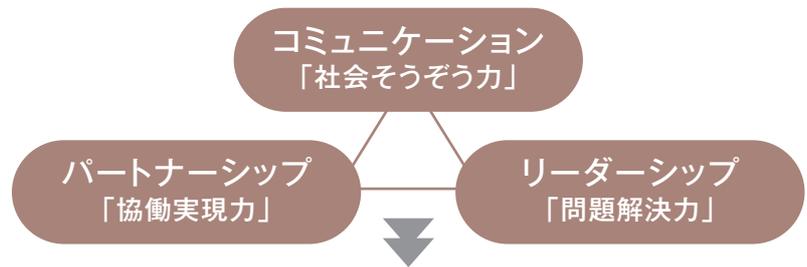
設立20年を迎えた人間科学部コミュニティ福祉学科は、福祉マインドで新しい社会を創造できる「ソーシャルウーマン」をコンセプトに、社会や地域と協働できるようになるために必要な「協働実現力」「社会そうぞう力」「問題解決力」の三つの力を養います。この新カリキュラムについて同学科の柴田学講師に話を伺いました。

「協働実現力とは行政や組織、地域とつながり、協働できる力。社会そうぞう力とは、問題を想像し、解決策を創造する力です。さらに問題解決力をつけることでリーダーシップを取れる女性をコミュニティ福祉学科ではめざします」と柴田講師は話します。「ソーシャルウーマン実践科目にはフィールドワークも取り入れて、自分たちで企画提案し、実践する力も身につけていきます。こうした力は福祉分野だけではなく、企業や非営利・協同組織などでも必要とされています」。

具体的には、1年次の科目に「ソーシャルウーマン総論」を設定。社会で活

ソーシャルウーマン実践科目

三つの力を身につけてソーシャルウーマンをめざす



ソーシャルウーマンとして社会へ

卒業後のさまざまな進路イメージ

一般企業で働く	公務員として働く
福祉系企業で働く	スポーツ健康施設・団体に働く
非営利・協同組織で働く	ソーシャルワーカーとして働く

大学院へ進学する

躍する女性を講師に招き、ロールモデルとして学びます。また2年次の「ソーシャルマーケティング論」ではマーケティング手法を応用した社会課題解決の方法を学びます。ほかにもウーマンプロジェクトとして社会貢献活動に参加し、振り返り報告も実施。外国人が入所・運営する福祉施設やホームレス支援の現場などさまざまなところでフィールドワークを行いながら、多文化共生や多世代交流づくりについて学び、応用力も磨きます。

3年次では「ファンドレイジング演習」を実施。「今はNPOでもクラウドファンディングを行なう時代。ファンドレイジングの力は社会貢献活動でも必要とされます」と柴田講師は話します。その他、企業の社会貢献や社会的責任を学ぶ

「CSR論」、スポーツ経済や経営を学ぶ「スポーツと社会」などを学修。特にスポーツの分野で活躍したい人は、初級・中級の障がい者スポーツ指導員の指定科目を履修することで資格も取得できます。

さらにソーシャルワーカーなど福祉の専門職をめざす学生にはソーシャルワーカー養成カリキュラムを用意。資格取得を手厚くサポートします。

こうした学びから「どんな職種や立場になっても、問題意識を持って社会貢献できる人になってほしい」と柴田講師。「協働できる仕組みの知識を学べば、社会を変えられる可能性もあります。福祉マインドでこれからの社会を創造できる人を育成していきたいと考えています」。

コミュニティ福祉学科 三つのポイント

- POINT 1 「福祉」の視点から人と地域を理解する
- POINT 2 多様な分野で活躍するための「三つの力」を養う
- POINT 3 体験型学習を通してリアルに学び、実践する